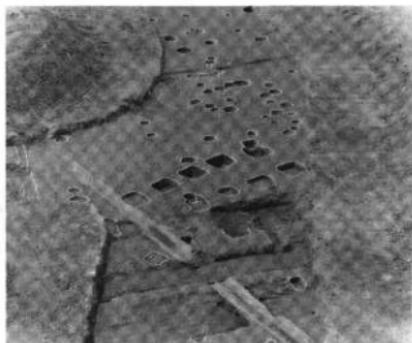




調査区全景 南地区（北から）



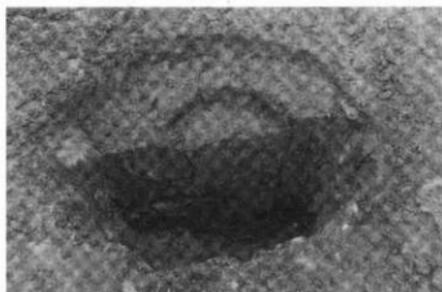
建物跡(SB-01)全景（北から）



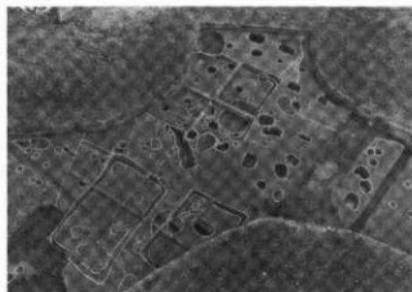
調査区全景 北～南地区（北から）



建物跡(SB-10)全景（北から）



柱穴半截状況



豊穴住居群全景（東から）

耳原遺跡

所在地 茨木市耳原三丁目1

調査原因 給排水設備移設事業

調査期間 平成16年7月21日～平成16年8月24日

調査面積 525m²

調査担当 中東 正之

調査結果

耳原古墳は、6世紀後半の大型単独墳（円墳）で、耳原の低位段丘の最高所となる北端部に位置する。石棺が2基安置された横穴式石室は、玄室の長さ約6.97m、幅約2.4m、高さ約3m、羨道の長さ約6.97m、幅約1.68mと非常に長いのが特徴である。側室は花崗岩の自然石を用いて三段に積み、上部に天井石をのせている。現在は（株）帝人研究所内の敷地内となっており、大きく土地改変がなされている。旧地形が比較的遺存していると思われる墳丘の西側を基準とすると、北側の平坦面をはじめ、道路が貫く東側、グラウンドが広がる南側は、盛土が大きく削られ、現況で南北約20m、東西約16m、高さ約6mを測る墳丘は、三島地方最大の規模を有する石室とは不釣り合いな姿となっている。今回、研究所内の設備改変に伴い、墳丘北側の平坦面から既設道路の一部にかけて、給排水設備を移設することに先立ち発掘調査を実施した。調査範囲は水道管理設帯と排水路を避け、第1調査区から第3調査区に分けて実施した。

基本層序は、表土、研究所建設時の盛土層、平安時代中期から中世の遺物を包含する茶褐色土、検出面である明黄褐色土となり、以下は疊混じりの自然堆積層となる。

第1調査区は既設道路部分である。排水路に沿って大きく削平されていた。溝、土塙、ピットなどを検出した。

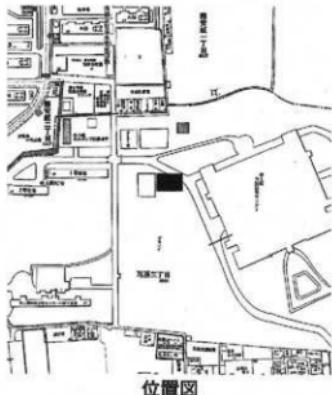
第2調査区は石室奥壁から北へ十数mまで近接するものであるが、大樹の伐根跡など攪乱が激しい。検出面の地形はほぼ墳丘の高まりに沿うものである。

第3調査区では中世の土取り塙、ピット、埋没した近代の水路を検出した。土取り塙は検出面である明黄褐色土を掘り取ったもので、大きいものは4×8mほどにおよぶものである。検出面の地形は、墳丘方向から近代流路に向けて下るものである。

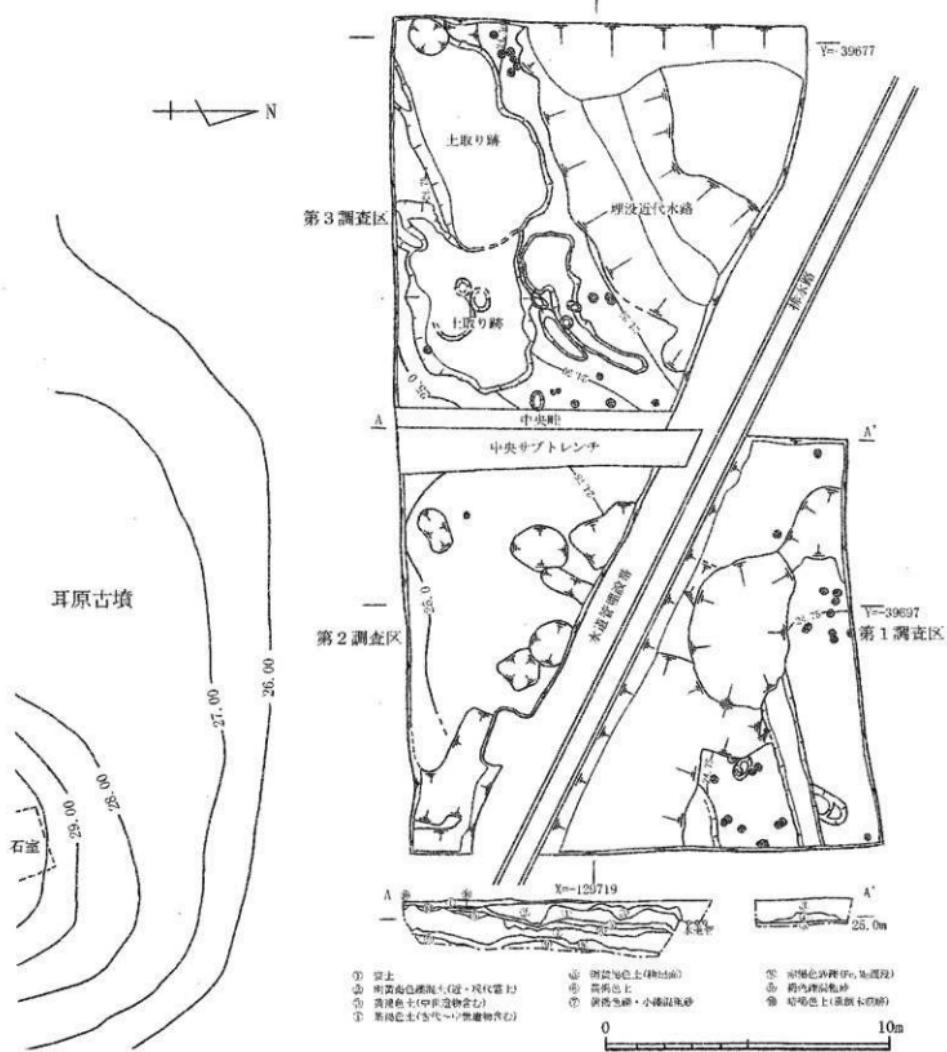
遺物は包含層出土の土師器、須恵器、平安時代中期の土師皿、黒色土器、中世土器などのほか、土取り塙埋土内より出土した中世の瓦、磁器などがある。他の遺構からは出土しなかった。

遺物は少なく総じて摩滅しているため時期特定は困難であった。遺物総量はコンテナパッド1箱に満たない。

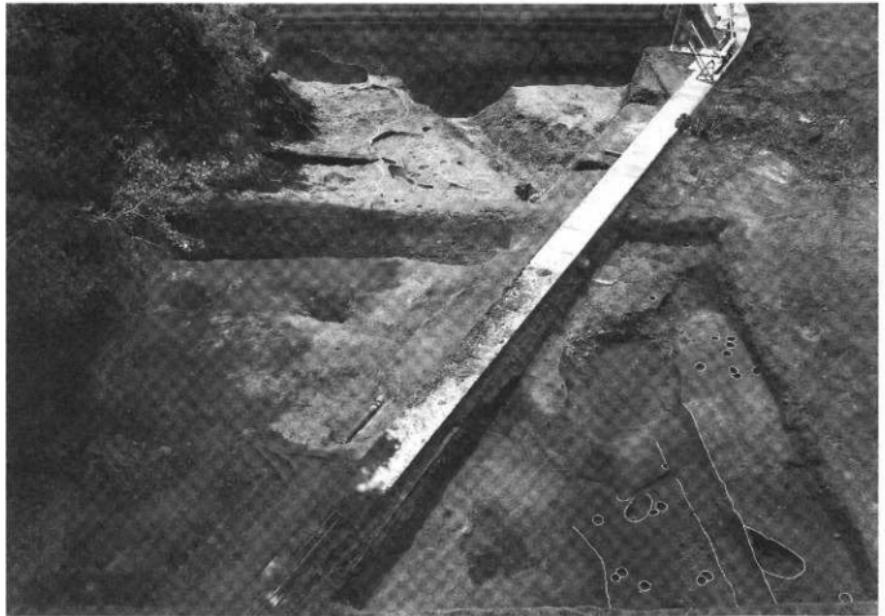
今回の調査で少なくとも中世の段階には土地改変が実施されていたことが判明した。検出面は、墳丘にほぼ対応した高まりを見せており、低位段丘北端部の隆起であると判断される。流路を挟んでさらに一段低くなっている、旧水田と思われる平坦面となっている。この平坦面に立って墳丘を観察すると、現状は大きく削平されているとはいえ、かつての威容が垣間見える。



位置図



第62図 耳原遺跡 平面図(右)・東壁断面図(下) および耳原古墳位置図(左)



調査区全景写真(東から)



第1調査区(南西から)



第2調査区(西から)



第3調査区(南東から)



調査区と耳原古墳(北西から)

第63図 耳原遺跡 遺構面検出状況

東奈良遺跡

所在地 茨木市東奈良三丁目111

調査原因 共同住宅建設事業

調査期間 平成16年6月16日～平成16年9月6日

調査面積 532m²

調査担当 宮脇 薫

調査結果

敷地の形状により1次2次に分けて調査を実施した。基本層位は区画整理事業に伴う盛土が約1m、淡灰茶色土約25～40cm、淡褐色土（第1包含層）約25cm、褐色土約10cm（第2包含層）、黄色土が堆積している。調査区の北半部においては淡褐色土は確認されなかった。他の地区で確認されている



位置図

灰褐色土は確認されなかった。淡褐色土の第1遺構面、黄色土の上面を第2遺構面として調査を実施した。付近の調査地で確認されている淡灰褐色土は確認できなかった。淡灰茶色土及び淡褐色土の上面においても遺構が確認できないことから、古墳時代中期以後の遺物は一部の遺構内からの出土を除いて出土しなかった。

第1遺構面

調査区の南半から検出した遺構は、柱跡、溝、土塙などであり、出土遺物から弥生時代中期のものと考えられる。

第2遺構面

環壕と考えられる大溝が3条検出された。

溝-1は幅が約2.6～2.75m、深さ約63～87cmである。調査区の西では抉られた状態で検出された。溝内から弥生時代中期の土器が出土している。

溝-2は幅が約4～4.5m、深さ1.2～1.65mである。溝内から弥生時代中期の土器が出土している。外側と考えられる北の岸に径が約30～40cmのほぼ円形の柱穴が岸に沿うように8基検出された。

溝-3は調査区の北東隅で検出された。規模は幅が約2.1m、深さ約90cmである。溝内から弥生時代中期の土器が出土している。

溝-4・5は幅約20～30cm、深さ約7～15cmである。溝内に径が約12～20cmの柱穴が約15～30cm間隔で検出された。溝ではなく柵列の可能性がある。柱跡は調査区の全域で検出され、溝-1の南が密な状態であった。

溝-1より南の地域の柱跡は、径が約20～35cmの円形あるいはほぼ円形の規模の小さいものである。

溝-2より北の地域の柱跡は、短径が約53~75cm、長径が約62~90cmの規模の人大きなものである。柱跡の埋土からの遺物により時期差は認められない。

井戸-1は短径が約1.15m、長径が約1.98mの楕円形、深さ約1.05mである。内より弥生時代中期（畿内Ⅳ様式）と形態・模様が同じ大小の器台と壺が出土した。

井戸-2は径が約2.15~2.4mのほぼ円形で深さ約87cmである。内より弥生時代中期（畿内Ⅲ~Ⅳ様式）の土器が出土している。

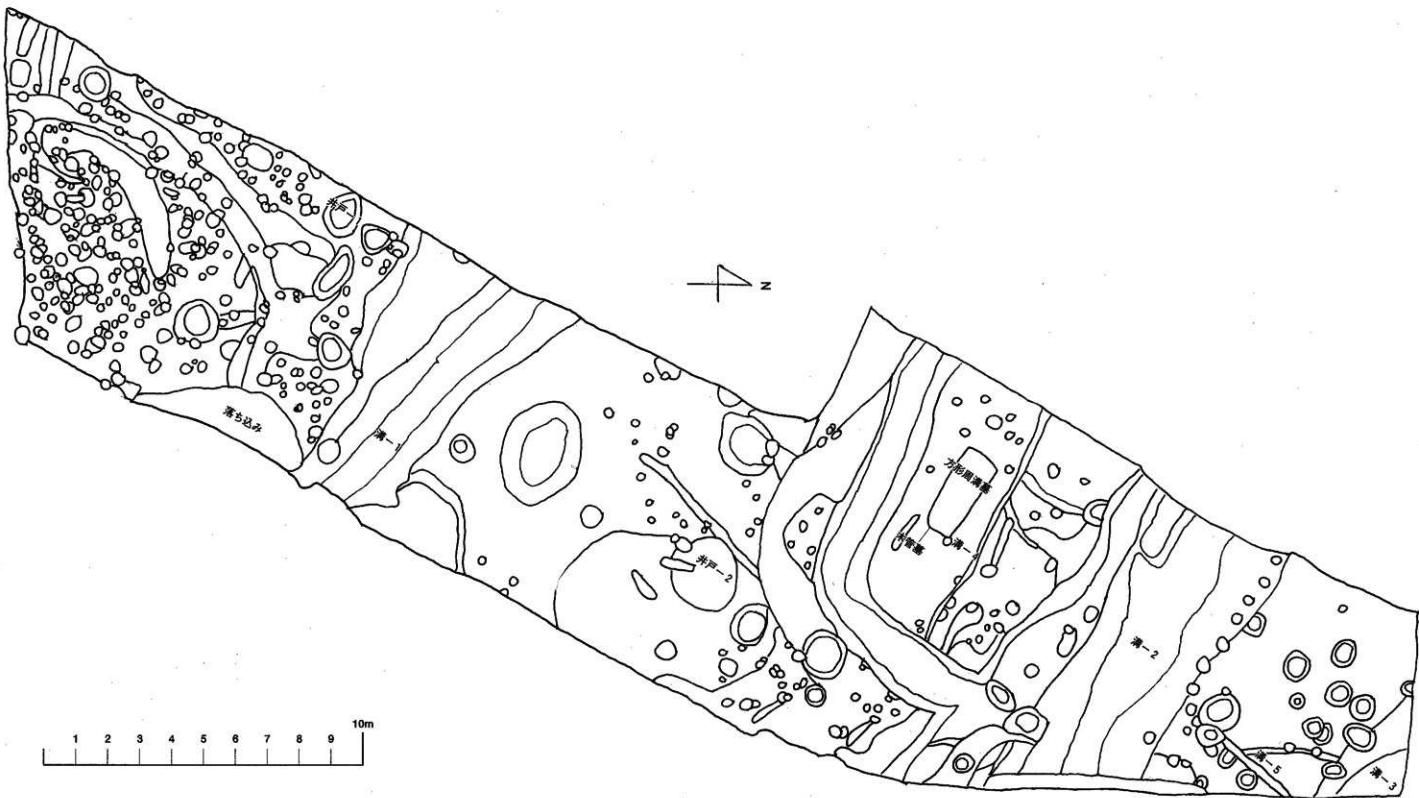
方形周溝墓-1は調査区の中で検出されたのは一部である。また、北においては溝-2によつて削られている。一辺が約9.55mである。周溝は幅が約1.65~1.98m、深さ約56cmである。周溝内より弥生中期の上器が出土しており、また、南の周溝の底から木製の鋤が出土した。盛土は明確に確認できなかった。

ほぼ中央部に木棺墓が検出された。幅が約74cm、長さ約2.12m、深さは約7cmの掘方に幅が約54cm、長さ約1.77mの底板部のみ検出された。周間に側板及び小門板の痕跡は認められなかつた。底板には頭位を西にして伸展葬の形で、ほぼ全身の人骨が残つていた。しかし、大きく頭部は削られており顎の部分は失われていた。骨盤部はよく残つてゐることから仰向けに納棺されたものとみられる。その他の埋葬関係の遺構はなかつた。

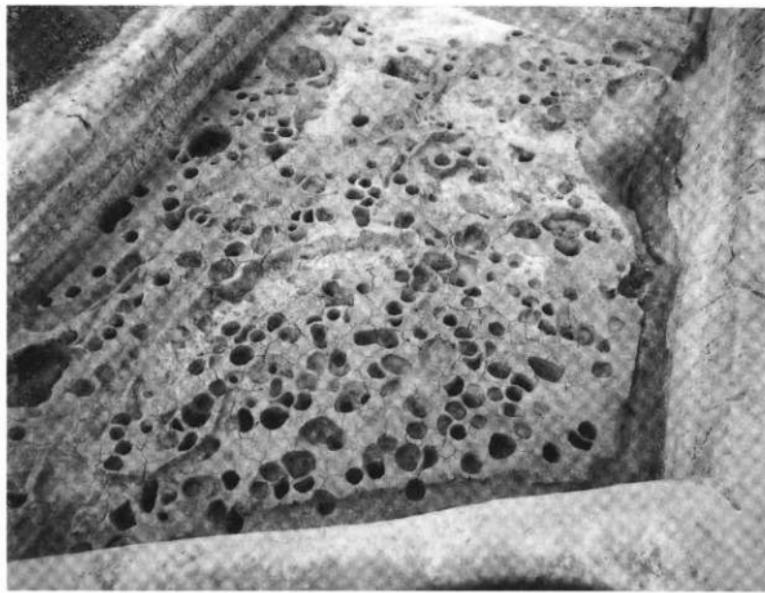
他に上塙・落込みが検出された。

落込み-1は調査区ではほぼ1/2である。径が約7m、深さ約1.82mである。埋上から近現代の磁器・桶の底板が出土した。

環壕とみられる大溝を3条検出したが、弥生時代中期と考えられるが、未だ上器が未洗浄であり、時期の確定や概調査の環壕との位置関係等は今後の課題として残つており、方形周溝墓が環壕の内である住居域に検出されたことについては、時代とともに集落域の状況が大きく変遷していったものと考えられる。



第64図 東奈良遺跡 遺構図



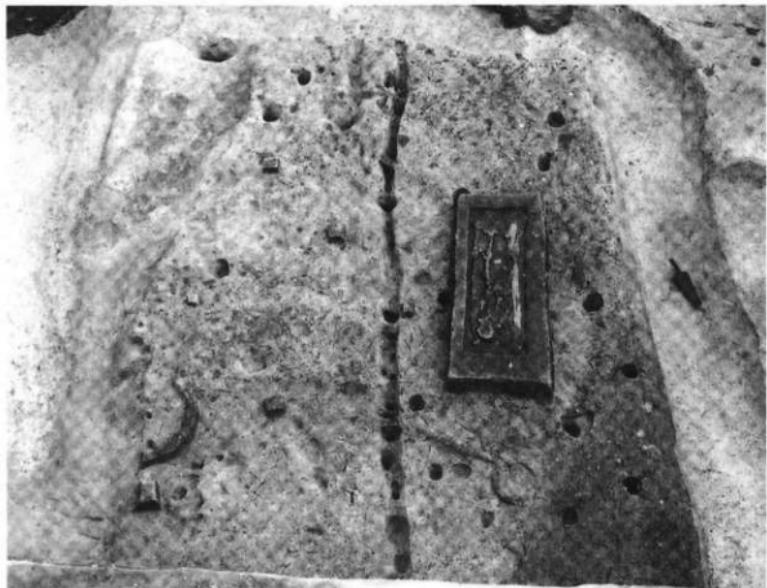
第65図 第1次調査（第3遺構面）南から



第66図 第2次調査（中央部）北から



第67図 第2次調査



第68図 第2次調査 方形周溝墓・溝一IV

宿久庄遺跡

所在地 茨木市藤の里三丁目455-2他

調査原因 コミュニティセンター建設事業

調査期間 平成16年9月6日～平成16年11月15日

調査面積 502m²

調査担当 宮脇 薫

調査結果

当該地は茨木市域の西部に流れる勝尾寺川が北から南の流れが千里丘陵北端山麓で大きく東へ変えるところの左岸に位置している。付近では数回の発掘調査が実施されて来ている。古墳時代中期及び鎌倉～室町時代の中世の遺構が検出されている。



位置図

基本層位は耕土約20～25cm、淡黄色土（床土）約5cm、無遺物層である淡黄褐色土約20～25cm、古墳時代及び中世の遺物が含まれている褐色土（包含層）約35～45cmである。調査地の北半部はゲートボール場に使用されていたので耕土の上に約30cmの盛土がされていた。その下層の黄褐色土が遺構面となっている。遺構面は西北から東南に低くなっている。

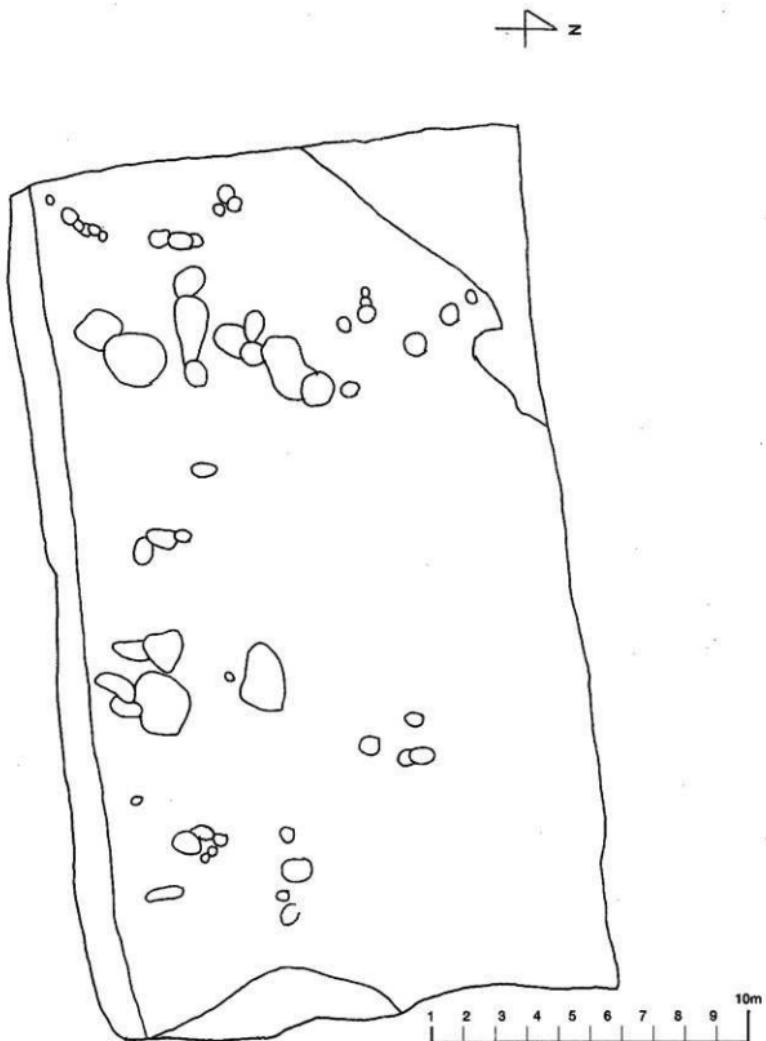
検出された遺構は溝、土塙、柱跡、落込みである。

溝は調査区の南を東西に平行で、北の岸部のみの検出である。幅が約86cm～1.15m、深さ約6～16cmである。溝内より土師器、須恵器、瓦器の破片が出土している。

柱穴は径が約18～35cmである。柱穴の埋上から須恵器・土師器の組み合わせと、土師器・瓦器の組み合わせのものに分けることができ、このことから古墳時代、中世の二時期のものがあるとみられる。

土塙は円形、橢円形、不整形のものがあり、底面は平底状、舟底状である。落ち込みは2基であり、不整形、底面は平坦である。深さは約5～7cmである。出土遺物はなかった。

以上の遺構は古墳時代と中世の時期の集落跡とみられ、溝は明確な時期は不明であるが、方位が現畔と同一に近いことから字界の溝とも考えられる。



第69図 遺構図

春日遺跡

所在地 茨木市春日三丁目120

調査原因 共同住宅建設事業

調査期間 平成16年11月8日～平成16年12月8日

調査面積 396m²

調査担当 中東 正之

調査結果

春日遺跡は、千里丘陵から延びる低位段丘と茨木川が形成した扇状地に立地する集落遺跡である。集落の形成は弥生時代中期に遡り、中世に至る複合遺跡である。古墳時代中期から後期にかけて、近隣の倍賀遺跡や郡遺跡と端を接するほどに集落規模が拡大している。本調査地の位置する春日三丁目から五丁目付近は、早くから市街化したため、近年の再開発によって遺跡の様相が明らかとなってきた。本調査は昭和47年に建設された銀行寮の解体と共同住宅建設に先立ち発掘調査を実施した。昭和47年当時銀行寮建設時に発掘調査が実施されており、その遺構平面図を今回の調査結果と合わせて報告する。

基本層序は南壁断面図（第70図）のとおり、水田段差の東西で様相が異なるが、標高14m付近に暗褐色粘質上層（古墳時代後期頃の包含層）が普遍的に広がり、以下検出面となる地山層となる。検出遺構は水田段差以西で主に中世～近世の鋤溝、以東で古墳時代後期頃の溝、ピット、そして断面観察によって埋没河道を確認した。以下主要な遺構について概説する。

SD-1は幅1.4～3m、深さ0.4～0.6mを測る東西流路である。旧調査区の溝Dから連なり、旧調査区の溝Dに至ると考えられる。埋土はレンズ状に堆積する5層ほどに分かれ、埋土上・中層からは5世紀後半の須恵器壺蓋など、下層からは摩滅した弥生後期の土器片が出土した。

SD-2は幅0.8～1mを測る浅い溝である。SD-1と重複し調査区外に至る。埋土内から古墳時代後期の須恵器片などが出土している。

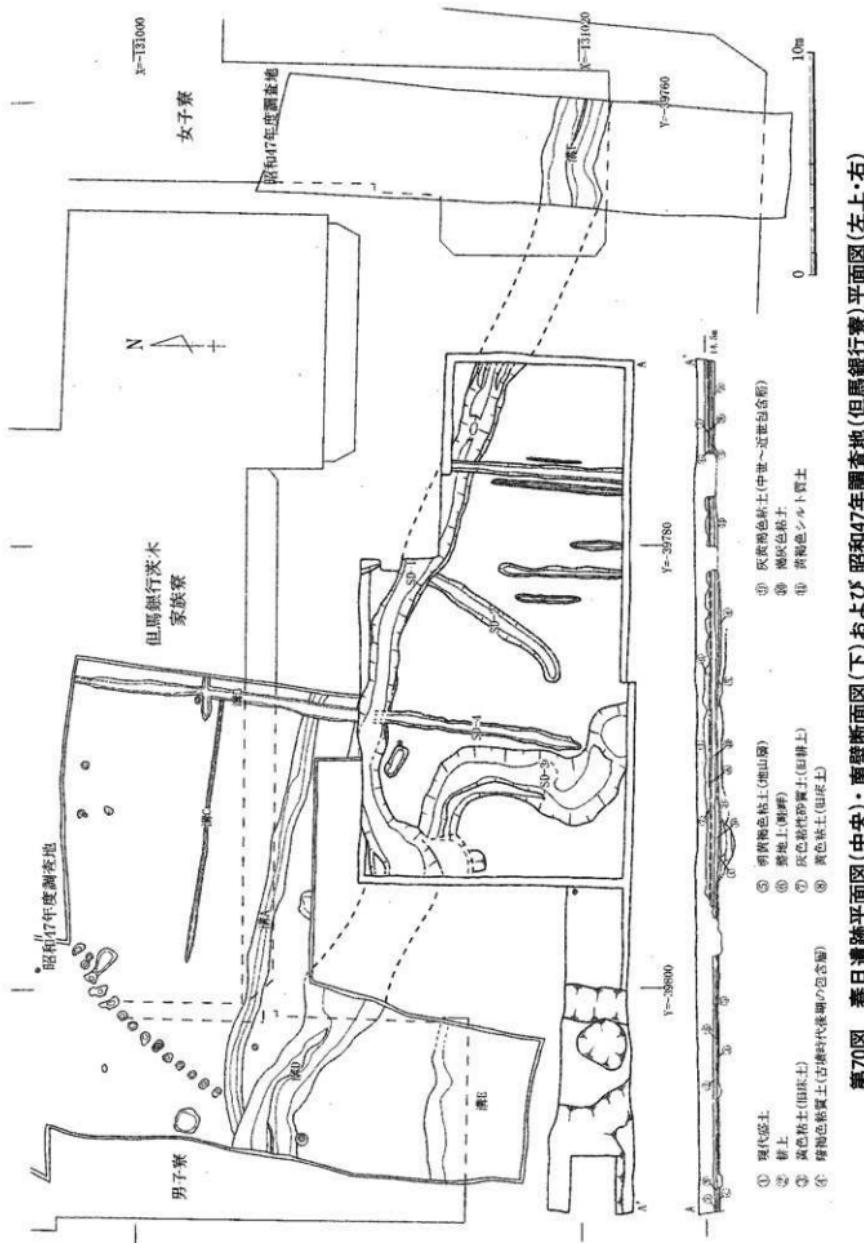
SD-3は幅1.8～3m、深さ0.5～0.7mを測る。蛇行して南から北へ流れる流路である。SD-1と重複しているが前後関係は不明である。旧調査区Dから連なっている可能性がある。埋土はレンズ状に堆積する5層ほどに分かれが遺物は少なく、最下層から弥生後期の壺の破片などが出土した。

SD-4は幅0.6m前後を測る浅い溝である。SD-1を切っており、旧調査区（昭和47年度調査地）の溝Bに該当することが判明した。埋土内からは摩滅した須恵器片と弥生土器片が出土している。

埋没河道は西側調査区南壁沿いの断面観察のみであるため全容は明らかではないが、幅10m以



位置図



第70図 春日遺跡平面図(中央)・南壁断面図(下)および昭和47年調査地(但馬銀行寮)平面図(左上・右)

上、深さ1.5m程度を測る。おそらくは南から北へ流れる大型の自然流路であろう。遺物は確認できなかった。

遺物は弥生土器、古墳時代の土師器、須恵器、中世の瓦器、磁器などがある。総じて摩滅しており、包含層出土の土器類が大半を占める。遺物総量はコンテナパッド1箱である。

今回の調査では旧調査区に連なる溝群を検出した。SD-1・3は最下層から弥生後期の土器が出土しており、当該期に遡る流路の可能性がある。



第71図 春日遺跡 遺構面検出状況

報告書抄録

ふりがな 書名	おおさかぶいばらきしへいせいじゅうろくねんどはくつちょうさがいほう 大阪府茨木市平成16年度発掘調査概報					
副書名	平成16年度(2004年度)					
巻次						
シリーズ名						
シリーズ書						
編著者名	宮恵薰・中東正之・黒須靖之・宮本實治					
編集機関	茨木市教育委員会					
所在地	567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号					
発行年月日	西暦 2005年3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積 m ²
東奈良遺跡	大阪府茨木市	27211	55	34°48'02" 135°34'15"	200441~ 200469	532 共同住宅
東奈良遺跡	東奈良三丁目	同上	27211	55	34°48'51" 135°34'12"	200441~ 200461
耳原遺跡	耳原三丁目	27211	31	34°50'18" 135°33'57"	200464~ 20041012	7,517 宅地造成
牟礼東遺跡	牟田町	27211	未	34°48'53" 135°35'20"	2004521~ 2004527	106 共同住宅
東奈良遺跡	天王二丁目	27211	55	34°48'01" 135°33'59"	2004524~ 200462	65 共同住宅
總持寺遺跡	二品丘一丁目	27211	32	34°49'47" 135°34'54"	2004524~ 2004611	1,862 宅地造成
耳原遺跡	耳原三丁目	27211	31	34°50'19" 135°33'59"	2004721~ 2004824	525 給排水設備
東奈良遺跡	東奈良三丁目	27211	55	34°48'51" 135°34'14"	2004616~ 200496	532 共同住宅
宿久庄遺跡	廉の里二丁目	27211	59	34°50'00" 135°32'27"	200496~ 20041115	502 コミュニティ センター
春日遺跡	春日三丁目	27211	60	34°49'05" 135°33'54"	2004118~ 200428	396 共同住宅
春日遺跡	春日三丁目	27211	60	34°49'02" 135°34'08"	2005127~ 200523	36 共同住宅
所収遺跡名	種別	主時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東奈良遺跡	集落	弥生時代前期～中期	環壕 (弥生前期2条) 古墳時代前期	弥生土器 (前期～中期が主体) 溝 井戸 上坑 柱穴 小穴		
東奈良遺跡	集落	弥生時代	柱穴 墓	弥生土器 十字器 須恵器		
耳原遺跡	墓域	古墳時代後期	耳原西古墳 (円墳の横穴式石室)	土師器 須恵器 土管埴輪		
牟礼東遺跡	集落	中世	柱穴 墓 井戸 上坑	形象埴輪 金製環 ガラス玉 瓦器		
東奈良遺跡	水田?	弥生時代	水田遺構?	足跡遺構	弥生土器 ガラス玉	
總持寺遺跡	集落	縄文時代	縄文住居跡 縄文柱建物 (倉庫)	土師器 須恵器	須恵器 瓦器	
耳原遺跡	古墳	平安時代～中世	土取り跡 溝 ピット	須恵器 瓦器		
東奈良遺跡	集落	弥生時代	溝 井戸 上坑 方形周溝墓	弥生土器 石器		
宿久庄遺跡	集落	古墳時代～縄文時代	土坑 柱穴	土師器 須恵器		
春日遺跡	集落	弥生時代後期	溝 井戸 柱穴	弥生土器 (中期～後期) 土師器 須恵器 (古墳時代後期～ 奈良時代) 黒色土器		
春日遺跡	集落	古墳時代平安時代 中世	柱穴 溝 井戸 上坑	土師器 須恵器 陶磁器		

平成 16 年度発掘調査概報

発行日 平成 17 年 3 月 31 日

発 行 茨木市教育委員会

印刷所 株式会社 トゥユー